

しゆくがわ  
夙川水系河川整備計画

平成 20 年 7 月

兵 庫 県

# 目 次

第1章 河川整備計画の目標に関する事項	1
第1節 流域及び河川の概要	1
第2節 河川整備の現状と課題	3
1. 治水の現状と課題	3
2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題	4
第3節 河川整備計画の目標	5
1. 河川整備計画の対象区間	5
2. 河川整備計画の対象期間	5
3. 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	5
4. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、 河川環境の整備と保全に関する目標	5
第2章 河川整備計画の実施に関する事項	6
第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の 施工により設置される河川管理施設の機能の概要	7
第2節 河川維持の目的、種類及び施工の場所	7
第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項	8

## 第1章 河川整備計画の目標に関する事項

### 第1節 流域及び河川の概要

夙川は、西宮市の西部に位置し、東六甲山のごろご岳(565m)、カベノ城(483m)などの山を水源として、甲山、北山貯水池からの支川を合わせて山間部から、西宮市西部の市街地を南下し、大阪湾に注ぐ、流域面積8.5km<sup>2</sup>、河川延長は約4.1kmの二級河川である。

夙川の河床勾配は、河口から2.6kmまでが約1/180、2.6kmから4.1kmまでが約1/60から1/20へと上流になるほど急勾配となる。

夙川の上流は、六甲山と北山貯水池、甲山森林公園、北山公園があり、風致地区、特別緑地保全地区などに指定され自然が保全されている。その下流の苦楽園は六甲山麓の開発で温泉が発見され、下流の遊園地として開発された香櫨園とともに旅館・温泉・遊園地などをそなえた別荘地や高級住宅地として開発された。

現在も北部の六甲山腹に向かって市街地が拡大し、流域の約58%が市街地となっている。

地質系統は、中生代の六甲花崗岩と新生代における大阪層群、段丘礫層および沖積層の2つに分けることができる。

東六甲山系に属する流域上流部の山地は六甲花崗岩である。山麓の丘陵地部は、基盤の六甲花崗岩の上を凝固度の弱い礫、砂、粘土からなる大阪層群、段丘礫層などの洪積層に覆われている。下流の平地部は、河川の氾濫で形成された沖積層である。

気候は瀬戸内海性気候に属し、年降水量は1200mm～1300mm程度と少ない。兵庫県の本州海側での降水量が2000mm程度あるのと対照的である。平均気温は15.8℃と温暖である。

兵庫県の南東部では、台風期だけでなく梅雨期にも集中豪雨が発生しやすい。その原因として、湿潤な空気が南の海上から紀伊水道を経て、この地域に直接流入し、それが地形的に収束されるためであるとされている。これまでも台風期とともに梅雨期の記録的な大雨により大きな災害を引き起こしている。

高度成長期以降、都市化の進展により地表面の多くの部分が舗装され、地中に浸透したり、田畑に貯留されていた降雨が、一気に河川に流出してくることとなった。また、河川の氾濫域における人口・資産の集積が進んだことで、浸水が発生した場合の被害は増大している。

夙川の歴史・文化としては、古墳時代後期の古墳群が苦楽園付近に現存している。

また、市の重要文化財「御蔭踊り囃絵馬」を有する越木岩神社があり、境内には県の天然記念物に指定されているヒメユズリハの群落がある。

夙川流域は阪神間の別荘地、住宅地として開け、谷崎潤一郎、湯川秀樹、山口誓子など多くの作家や文化人が住むようになり、作品の舞台を提供している。

文化施設としては、夙川の下流に辰馬考古資料館、郷土史資料館などがあり、上流の北山公園には北山緑化植物園がある。

## 第2節 河川整備の現状と課題

### 1. 治水の現状と課題

夙川では古くから、高潮による浸水被害と台風や梅雨前線による豪雨で浸水を繰り返してきた。昭和の初めには、昭和9年の室戸台風による高潮で夙川の下流部が浸水し、昭和13年7月の阪神大水害では獅子ヶ口付近の堤防が決壊した。

また、昭和25年9月のジェーン台風、昭和36年9月の第2室戸台風などの高潮により夙川の下流部が浸水しているが、海岸堤防の決壊によるものである。

夙川の改修は、昭和13年の阪神大水害を契機に着手し、改修された。

また、下水道の雨水対策はJ R東海道本線より北の区域は分流式、南の区域は合流式で整備され、概成している。

また、昭和25年9月のジェーン台風、昭和36年9月の第2室戸台風、昭和40年9月の台風20号など、相次ぐ高潮被害に見舞われた夙川では、大阪高潮対策事業として堤防の嵩上げが行われ、昭和46年に完成した堤防は現在オアシスロードとなって市民に利用されている。

## 2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題

河川水に利用について、現在農業用水などの取水は行われていない。

夙川の上流には、北山貯水池、甲山森林公園、北山公園などがあり、多くの行楽客が訪れる。河口から銀水橋付近（河口より 4200m）までの河川敷には、夙川公園として桜や松の植樹や散策路、ジョギングコース等が整備され、河川の石積護岸などとあわせて良好な河川景観を形成し、地域住民に親しまれている。

夙川公園は、昭和初期の河川改修とともに兩岸の松林が保全されながら造られたものである。当時の河川改修は、樹林は伐採され、余った土地は売却されて宅地となるのが一般的であったが、河川周辺の居住者、阪神電鉄、阪急電鉄等の受益者負担によりにより保全されることになった。

現在夙川公園には桜 1,600 本、松 1,500 本を数え、全国の「さくら名所 100 選」にも選定された桜の名所となっている。また随所に階段が設置され、水際まで降りることができる。夙川公園と共に夙川に散策等で訪れる人は多く、夙川そのものが地域に密着した河川となっている。

このように夙川は多くの人に親しまれ、地域住民も川に対する意識が高く各種団体により清掃等が行われている。

河川環境については、沿川の桜や松等の樹林を生息場とするシジュウカラやコゲラ、キジバトなどの鳥類がほぼ全区間にわたって確認されているほか、多様な生物の生息が確認されている。

上流では河床勾配が急で瀬・淵が残されており、ヌマムツ、カワムツ、カワヨシノボリが確認された。カワムツは汚濁に弱い種であり、本種が確認された水域は、水質的に良好な状態であることがわかる。植生はツルヨシ、クサヨシなど水際部に広く生育しているほか、エノキなどの落葉広葉樹林や、モウソウチク、メダケなどの竹林など植生は多様である。昆虫類では貴重種のナガサキアゲハが確認されている。鳥類では瀬を餌場とするチュウサギなどが確認された。

また、中流では桜や松などが植樹され、エノコログサ、セイバンモロコシなど草本類も多く存在する。河床は砂泥を主として転石、礫が混じった材料で構成される。河道は直線的であるが砂州が発達し区間もあり、草本類を主体とした水際植生が見られる。また、これらの砂州や転石の周囲、落差工の上下流には深みが形成されており、ウキゴリ、ドジョウ等の生息の場となっている。また浅瀬では、コサギなどの鳥類が確認されている。

下流の河床は砂泥となっている。マハゼ、オイカワ等の魚類が確認されている。

水質については、C 類型に指定されており、下水道整備が進んだこともあり近年の水質は概ね C 類型の基準を満足している。

### 第3節 河川整備計画の目標

#### 1. 河川整備計画の対象区間

本整備計画の対象は、夙川水系全ての法定河川とする。

#### 2. 河川整備の対象期間

本整備計画の対象期間は、計画策定から概ね20年間とする。

#### 3. 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

夙川では、概ね20年に1回程度の降雨で発生する洪水から人命、資産を守るための治水施設が整備されている。今後、これらの施設の適正な維持管理を図る。

#### 4. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全に関する目標

現在、夙川水の利用はないが、緊急時の夙川水の利用など関係機関と連携しながら適切に利用されるよう配慮する。

河川環境の整備と保全に関しては、関係機関と連携し、夙川公園と一体となった良好な景観の保全および動植物の生育・生息環境への配慮に努める。このため、中流域ではドジョウ、ウキゴリ等に配慮し、現況の砂州や深みが形成された河床、水際植生の保全・回復に努める。上流域ではカワムツ等の生息に配慮し、瀬・淵の保全に努める。

また、最下流の河口付近には干潟が形成されておりチュウサギ、コチドリ等の鳥類が確認されている。これらの生息環境に配慮し、干潟の保全に努める。

水質については、夙川本川全域でC類型に指定されており、現在、環境基準を達成している状況である。今後も関係機関と連携し、水質の改善に努める。

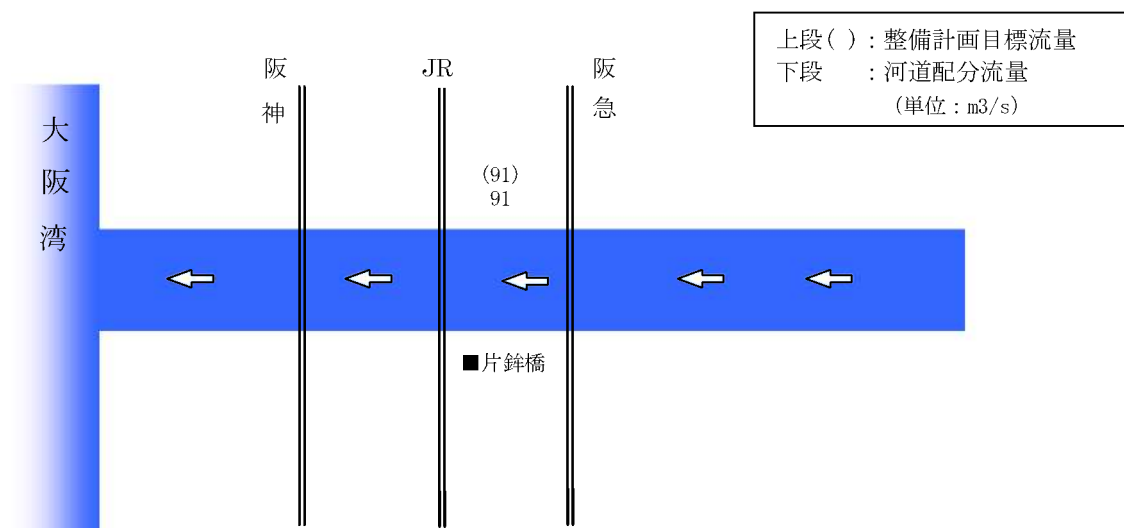
また、今後も動植物の生息状況等についてモニタリング調査を行い、河川環境の把握に努める。

## 第2章 河川の整備の実施に関する事項

### 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

#### 1. 河川工事の目的、種類及び施工の場所

夙川では、概ね20年に1回程度の降雨で発生する洪水から人命、資産を守るための治水施設が整備されているため、今後、これらの施設の適正な維持管理を図る。



流量配分図



## 第2節 河川維持の目的、種類及び施行の場所

河川維持の目的は、災害発生の防止、河川の適正な利用と流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全を考慮して、河川管理施設等を適切に維持管理するため、具体的に下記の事項に努めるものとする。

### (1) 河川管理施設の維持管理

河川管理施設の機能を十分に発揮させることを目的として、堤防、護岸及び他の河川工作物等の定期的な巡視、点検、整備を行うとともに、施設自体の質的低下を防ぐための補修を行う。

また、大雨、洪水、台風等により災害が予想される場合や出水後は、巡視を強化し異常箇所を早期に発見し、その対策を行う。

### (2) 堆積した土砂等の管理

堆積した土砂等は、洪水時の流下能力を維持することを目的とし、適宜河川状況の確認を行うことにより堆積状況を把握し、必要に応じて周辺河川環境を考慮しながら撤去等の維持管理に努める。

### (3) 河川空間の適切な利用調整・管理

夙川の上流には、北山貯水池、甲山森林公園、北山公園などがあり、多くの行楽客が訪れる。また、河川周辺は夙川公園として桜や松などの植樹が行われ、良好な河川環境を形成している。河岸には桜が連なり、桜の季節には見物客でにぎわい、夙川そのものが地域に密着した河川となっている。今後とも、良好な河川空間を維持し適切な河川空間の利用がなされるように努める。

### (4) 河川情報の高度化及び提供

洪水に備えるための雨量情報をインターネット等で市民に提供するとともに周知に努める。また、関係機関と連携してこれらの情報の強化・拡充に努める。

### (5) 水量・水質の監視等

適正な河川管理のために、日常的に雨量・水量の把握を行うとともに、定期的に水質の把握を行い、必要に応じて地域への情報提供を行う。また、河川巡視や関係機関との連携により水質事故等の早期発見と適切な対処に努める。

### (6) 河川環境整備への配慮事項

地元自治体をはじめとする関係機関や地域住民との連携を図り、歴史・文化・自然・環境などの特徴を活かした河川環境の整備に努める。

河川工事にあたっては、現況の良好な景観を維持するため、夙川公園との調和を考慮し、景観に配慮した工法を検討するとともに、河川環境の急激な改変を避け、多様な動植物が生息できる河川環境の保全に努める。

### 第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

#### (1) 下水道等との連携

現在、下水道による雨水対策としては概ね 1/6 の安全度を確保しているが、市街化の進展のため流出量の増大や集中豪雨に対して十分でなく、近年においても浸水被害が発生している。

この対策として、西宮市の下水道計画では管渠整備とあわせて学校や公園を利用した雨水貯留施設の整備等により雨水対策の強化を図ることとしている。

維持管理等による河川工事にあたっては、上記下水道計画や河川が下水道に与える影響等も考慮し、下水道管理者である西宮市と十分に調整、連携を図ることとする。

また、総合的な治水対策を推進する観点から、流域からの雨水の流出抑制のため、都市・農林・環境など関係する分野の機関並びに住民・団体・企業等との連携に努める。

#### (2) 流域住民と協働で行う河川管理

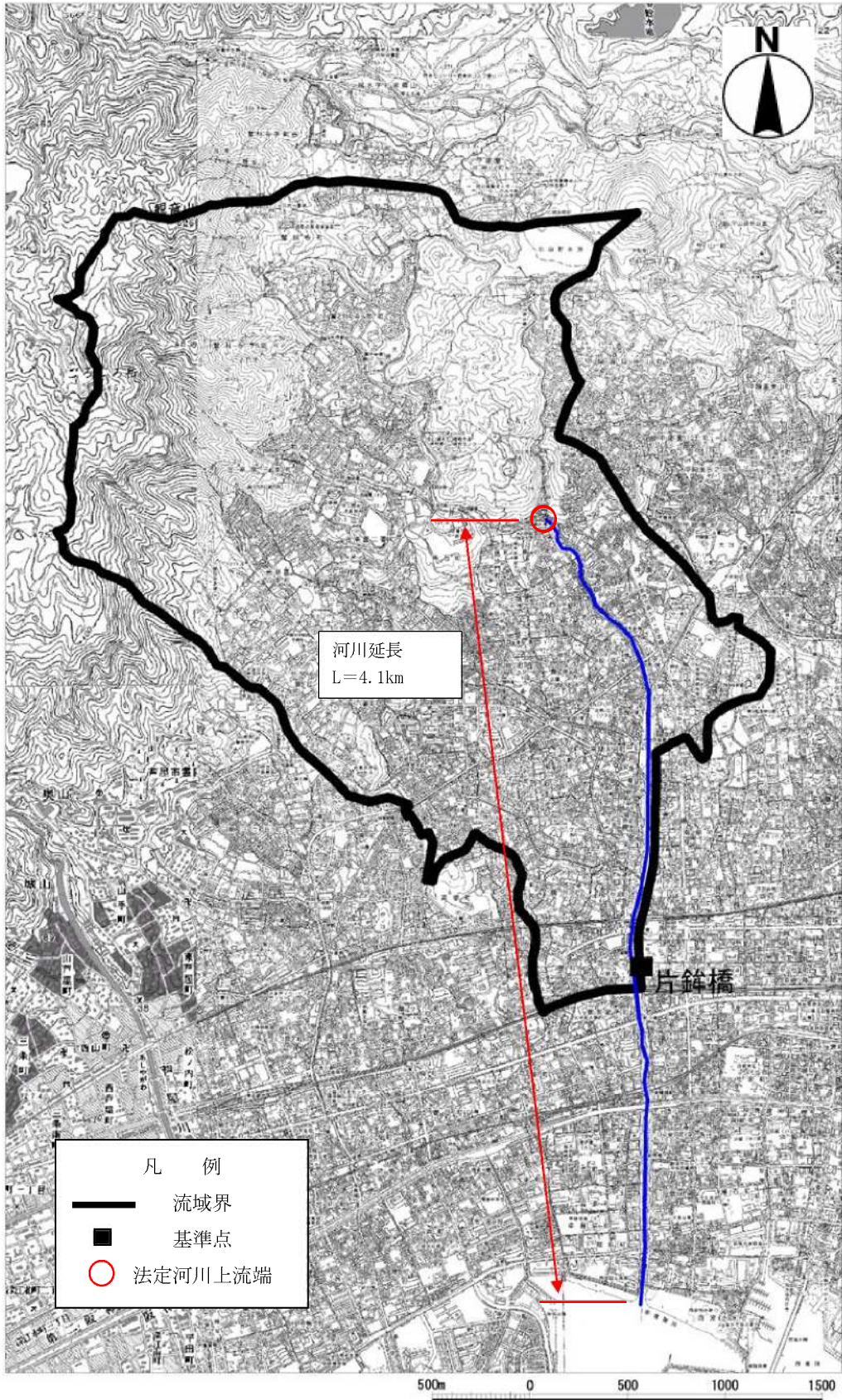
水質の改善、自然環境の保全などについては、流域住民の一人一人が河川の現状と課題を自らの問題として認識し、流域全体で問題解決にあたる必要がある。

このため、河川情報の公開や提供、共有化を進めるとともに、河川愛護活動の支援制度（アドプトプログラムなど）の導入・活用を図るなど、行政と流域住民が一体となり、参画と協働の視点観点から河川愛護活動等の活性化に取り組んでいく。

#### (3) 防災意識の向上

地域住民一人一人が防災意識を高め、洪水時には迅速かつ的確な警戒・避難を行う必要がある。このため、情報伝達体制及び警戒避難態勢の整備を行うとともに、ハザードマップ作成を支援し、地域住民への情報提供を行う。

また、洪水時の夙川の水位上昇は早いため、利用者に河川の危険性が認識されるよう、標識等により啓発に努める。



夙川水系図